



レバノン、イスラエル、シリア：イスラエルがゴラン高原でヒズブッラー要員6名を殺害

2015年1月18日、イスラエルの爆撃により、幹部を含むヒズブッラー要員6名が死亡した。同日付のシリア・アラブ通信（SANA）は、軍事筋の話として「諸般のテロ集団支援の一環として、本日（18日）昼、イスラエルのヘリが（ゴラン高原）被占領地クナイトラのアマル農地に向けてミサイル2発を発射した。これにより、6名が殉教、子供1名が重傷を負った」と報じた。一方、ヒズブッラーは報道関係部門が殉教者6名の氏名を発表しただけで、詳細な発表はしなかった。これに対し、イスラエルの報道機関は「公式筋がイスラエルへの攻撃を企てていたテロリストを殺害したことを確認した」と報じた。アマル農地はクナイトラ市付近のイスラエルとシリアとの兵力引き離し線のシリア側に位置している。攻撃で死亡した6名の中には、ヒズブッラーの指揮官でイラクやシリア問題の責任者の一人とされるムハンマド・イーサー、ヒズブッラーの軍事部門の幹部だったイマード・ムグニーヤ（2008年にダマスカスで暗殺された）の息子のジハード・ムグニーヤのような著名人が含まれていた。

評価

現在クナイトラ県では、「ヌスラ戦線」などのイスラーム過激派を中心にヨルダン方面から潜入した武装勢力とシリア政府軍との攻防戦が繰り広げられている。このため、2014年秋以降、同地に展開していた国連兵力引き離し監視軍（UNDOF）は兵力引き離し線のシリア側からは撤収し、イスラエル側にだけ展開している。こうした状況を踏まえると、ヒズブッラーの要員は「イスラエルへの攻撃を企画」したのではなく、政府軍側で戦闘に参加していた者たちではないかと思われる。

ゴラン高原方面での情勢へのイスラエルの関与には、不可解な点が多数ある。例えば、2014年末にUNDOFが発表した報告書によれば、ゴラン高原方面で負傷した武装勢力の者89名がイスラエルで治療を受けている上、イスラエルと武装勢力との間に数十回の会合が開催されている。また、本来イスラエルを敵視するイスラーム過激派諸派も、ゴラン高原方面に進出して以来、イスラエルに対する攻撃を一切行っていない。これまで、イスラエルはシリア領空の侵犯や爆撃を繰り返している。イスラエルにとっては安全保障上の脅威となるヒズブッラーの抑止という口実があるが、これらが他国に対する武力攻撃であることは明白である。また、シリア紛争勃発以来の軍事拠点やヒズブッラー要員への爆撃が、実質的には反体制派に対する援護射撃となっている点にも注意すべきである。

（高岡上席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.mei.j.or.jp/>